



久御山町 全世代・全員活躍まちづくりセンター
運営評価委員会2026

令和8年5月26日(火) 10:00～

久御山町役場 コンベンションホール





久御山町 全世代・全員活躍まちづくりセンター





開館準備業務の 令和7年度報告及び 令和8年度計画について

久御山町
全世代・全員活躍
まちづくりセンター



要求 水準

【参照資料】 「第4 要求水準」

1 開館準備業務

- ①事業者は本施設の設計事業者に対して意見や助言を行い、まちづくりセンターのコンセプトが十分に実現されるようにつとめること。
- ②事業者は、運営方針をはじめ、必要に応じ各種業務マニュアルを作成し、町の承認を得ること。
- ③施設の設計に対して助言等を行うものとし、町、設計事業者との連携を密に行うこと。
- ④事業者は諸室構成等について提案し、町の承認の下、これらについて変更できるものとする。
- ⑤開館後の管理運営業務に関する実施計画等（催事計画等）を町等と調整しながら作成すること。
- ⑥町は、本施設の整備内容について、住民の理解を深めるとともに、利用者である住民の意見を本事業の運営及び設計等に反映すべく、「設計対話」を開催するので、事業者は、この設計対話に出席し、設計事業者と共に協力し、必要に応じて出席者に対してアドバイスを行うこと。
- ⑦本施設の利用率や魅力向上等に資する意見については、町と協議の上、管理運営業務に適宜反映すること。
- ⑧町では、住民との意見交換会の設計対話は2回を予定している。
- ⑨事業者は設計事業者と協力して、多くの住民に周知できるニュースレターの作成を行うこと。発行回数は3回程度とする。
- ⑩運営に関する議会等への各種説明資料の作成に協力すること。
- ⑪開館にあわせて人事配置、育成等を実施すること。
- ⑫開館に関する広報等を行うこと。
- ⑬施設の運営に関するまちづくりセンター企画運営委員会（仮称）の事務局の運営を行うこと。
- ⑭業務に必要な備品について、所有の帰属先、費用の負担、管理方法や運用方法等について町と協議の上、とりまとめること。
- ⑮その他、開館までに必要な内容について町と協議の上、決定し、実施すること。

1. 各種庁内協議

.....【R7 報告】

要求水準

- 事業者は本施設の設計事業者に対して意見や助言を行い、まちづくりセンターのコンセプトが十分に実現されるようにつとめること。・・・①
- 施設の設計に対して助言等を行うものとし、町、設計事業者との連携を密に行うこと。・・・③
- 運営に関する議会等への各種説明資料の作成に協力すること。・・・⑩
- 業務に必要な備品について、所有の帰属先、費用の負担、管理方法や運用方法等について町と協議の上、とりまとめること。・・・⑭
- その他、開館までに必要な内容について町と協議の上、決定し、実施すること。・・・⑮

当初計画

引き続き運営管理定例会を中心に推進していくが、建築定例会や建築関係の舞台機構や外構などの分科会にも参加していく。また、適宜他部署との調整を行なっていく。

実施内容

- (1)運営定例会を月2回のペースで24回実施した。
- (2)その他協議会・分科会として舞台機構分科会や外構分科会に計32回出席した。
- (3)上記の他、建築定例会に計48回引き続きオブザーバーとして出席した。

【協議内容事例】

- オープニングイベントやオープン強化月間についての協議
- 条例関係（利用料金、優先利用など）についての調整協議
- 開館後の指定事業・自主事業についての協議
- 貸館予約システムについての調整協議
- 設計・建築の確認・協議事項についての助言 など

1. 各種庁内協議

.....【R8計画】

要求水準

- 事業者は本施設の設計事業者に対して意見や助言を行い、まちづくりセンターのコンセプトが十分に実現されるようにつとめること。・・・①
- 施設の設計に対して助言等を行うものとし、町、設計事業者との連携を密に行うこと。・・・③
- 運営に関する議会等への各種説明資料の作成に協力すること。・・・⑩
- 業務に必要な備品について、所有の帰属先、費用の負担、管理方法や運用方法等について町と協議の上、とりまとめること。・・・⑭
- その他、開館までに必要な内容について町と協議の上、決定し、実施すること。・・・⑮

R8計画

引き続き運営管理定例会を中心に推進していくが、建築定例会や建築関係の舞台機構や外構などの分科会にも参加していく。また、適宜他部署との調整を行なっていく。

想定内容

- (1)運営定例会を凡そ月2回のペースで実施する。
- (2)その他協議会・分科会として舞台機構分科会や外構分科会に可能な範囲で出席する。
- (3)上記の他、建築定例会に引き続きオブザーバーとして出席する。

【想定事例】

- オープニングイベントやオープン強化月間についての協議
- 開館に向けた広報計画・PR戦略の協議
- 条例関係（利用料金、優先利用など）についての調整
- 施設パンフレット等に関する協議
- 開館後の年間事業計画の策定協議
- 地域団体・関係機関との連携事業に関する協議
- 貸館予約システムについての導入の最終調整・確認
- 備品の受入れ準備の協議や備品配置の確認
- ルールを含むサイン計画や動線設計の確認 など

〈オープニング想定〉



【午前】

【午後】

ホール

式典／お披露目
コンサート
〈closed〉

転換

オープニング・コンサート
プロ奏者と住民のコラボ

諸室

各部署による催し

会場：ルーム1～2、クリエイティブ、プレイ、和み

外構

出店、お茶席、キッチンカー等

2. 町民への当施設の理解促進

.....【R7報告】

要求水準

■町は、本施設の整備内容について、住民の理解を深めるとともに、利用者である住民の意見を本事業の運営及び設計等に反映すべく、「設計対話」を開催するので、事業者は、この設計対話に出席し、設計事業者と共に協力し、必要に応じて出席者に対してアドバイスを行うこと。・・・⑥

当初計画

引き続き開館後象徴的な事業となる「ミニくみ」や地域学「巨椋池学」関連のプレ事業を実施することで、センターの開館後のソフト面の理解促進を図っていく。

実施内容

- (1)「ミニくみ」や「巨椋池学」などをはじめとする年度内実施のプレ事業において、参加された住民に対して都度施設理解につながるよう説明を重ねて実施した。
- (2)11月2日の文化祭当日には、計6回にわたり**建築現場見学会**を実施し、ソフト面（運営面）だけでなく、直接ハードの面からの理解にもつながるような機会を設けた。
- (3)1月18日の**くみやまマラソン**当日には、出張ブースをグランハット工事現場前に設置し、パネルでの建物や諸室用途の説明を行い参加者からの諸室の使い方などの質問に応じた。また、LINE登録への勧誘を行い、今後の継続的な施設の理解促進を図った。
- (4)事業の展開や来年度事業の計画に際して、町内の関係する諸施設（小中学校等）や寺社、農家、郷土史家などにも都度施設の理解につながるよう説明を重ねた。

建築現場見学会（計6回・34名）11/2(日) ※出張「三二くみ」も開催



くみやまマラソン出張ブース 1/18(日)



2. 町民への当施設の理解促進

.....【R8計画】

要求 水準

■町は、本施設の整備内容について、住民の理解を深めるとともに、利用者である住民の意見を本事業の運営及び設計等に反映すべく、「設計対話」を開催するので、事業者は、この設計対話に出席し、設計事業者と共に協力し、必要に応じて出席者に対してアドバイスを行うこと。・・・⑥

R8 計画

引き続き開館後象徴的な事業となる「ミニくみ」や地域学「巨椋池学」関連のプレ事業を実施することで、センターの開館後のソフト面の理解促進を図っていく。

想定 内容

- (1)引き続き開館までのプレ事業において、参加された住民に対して都度施設理解につながる説明を重ねていく。
- (2)開館を3月に控えてオープニングに直接つながる事業の展開や11月に想定している建築現場見学会を開催し、実際に施設のカタチが見えてきたところで具体的に住民や団体・企業がどの様に施設を利用していきたいかというヒアリングを実施する機会をあらためて設ける。

3. 機運醸成と町民参加促進支援……【R7報告】

要求水準

- 施設の運営に関するまちづくりセンター企画運営委員会（仮称）の事務局の運営を行うこと。…⑬
- 本施設の利用率や魅力向上等に資する意見については、町と協議の上、管理運営業務に適宜反映すること。…⑮

当初計画

開館後の事業に関連し、町内企業や団体にも事業への参画・協力を積極的に呼びかけていく。また、「ミニくみ」の大人スタッフについては企画運営委員だけでなく公募による一般住民の参画を呼びかけていく。

実施内容

- (1)プレ事業「ミニくみ」（12/6）の実施に向けて事前準備として計7回の「こども会議」を開催し、「こども会議」では企画運営委員がおとなスタッフとしてこどもスタッフたちの相談に乗りつつこどもたちの自主性を引き出すことに努め、本番に至るまでサポート役に徹した。なお、企画運営委員以外に一般公募により3名の「ミニくみ」おとなスタッフの参画を得ることができた。
- (2)事業の展開や来年度（令和8年度）事業の計画に際して、町内の関係する諸施設（小中学校等）や寺社、農家、郷土史家、町内外の企業など事業への参画・協力の輪を広げた。
- (3)地域連携の一環として、令和8年度以降の事業として京都市立芸術大学との連携を開始した。

「ミニくみ」こども会議① 全7回 こどもスタッフ三期生計22名



「ミニくみ」こども会議② 全7回 こどもスタッフ三期生計22名



「ミニくみ」本番 12/6(土)

こどもスタッフ・こどもレジデント 計62名



【ミニくみに参加した感想】

- ・ はじめてやってみて楽しかった。
- ・ 楽しいから来年も参加したい。
- ・ 次もまたやりたいです。
- ・ 楽しかったから中学生になってもイベントだけでも参加してもいいようになってほしい。
- ・ おなげをやって頭のなかがかんがらがりしました。
- ・ 店ばん大変。あそびに行けない。
- ・ うごく、景品をもっと多くする。
- ・ 景品を多くする。
- ・ ミニくみは楽しくてお金のつかい方を学べるからです。



3. 機運醸成と町民参加促進支援……【R8計画】

要求水準

- 施設の運営に関するまちづくりセンター企画運営委員会（仮称）の事務局の運営を行うこと。…⑬
- 本施設の利用率や魅力向上等に資する意見については、町と協議の上、管理運営業務に適宜反映すること。…⑮

R8計画

開館後の事業に関連し、町内企業や団体にも事業への参画・協力を積極的に呼びかけていく。また、「ミニくみ」の大人スタッフについては企画運営委員だけでなく公募による一般住民の参画を呼びかけていく。

想定内容

- (1)企画運営委員会をプレ事業関係以外でも開催し、企画運営委員の活動機会を増やす。
- (2)プレ事業「ミニくみ」（12/8）の実施に向けて事前準備として計7回の「こども会議」を開催する。「こども会議」では企画運営委員がおとなスタッフとしてこどもスタッフたちの相談に乗りつつこどもたちの自主性を引き出すことに努め、本番に至るまでサポート役に徹することになるが、このおとなスタッフについて令和7年度は一般公募により企画運営委員外の住民のみなさんの参画も募っていく。
- (3)地域連携の一環として、近隣大学等との連携を図っていく。

4. ブランディングと広報

.....【R7 報告】

要求水準

- 事業者は設計事業者と協力して、多くの住民に周知できるニュースレターの作成を行うこと。発行回数（※開業準備期間中）は3回程度とする。・・・⑨
- 開館に関する広報等を行うこと。・・・⑫

当初計画

ブランディングについては、愛称・ロゴ・イメージカラーが決まったのでこれを展開していく。広報については、従来の手法に加えて秋頃をめどに庁舎懸垂幕による新たな広報を予定している。

実施内容

- (1)「ニュースレター」を発行し、町広報紙への折り込みを行い全世帯への配布を実施した。
- (2)チラシなど印刷物には「愛称（グランハット）」「ロゴ」「イメージカラー（オレンジ色）」を使用し、ブランディング・イメージの普及に努めた。
また、ロゴ・グッズ試作品の住民への配布やグランハットのぼりの作成、文化祭50周年のうちわの作成など、様々な手段でのイメージの展開に努めた。
- (3)開館を控えてSNS（LINE、Instagram）やHPによる情報発信を行った。
※参照： LINE登録者数→148、Instagram登録者数→338、HP閲覧数→13,720

「ニューズレター」vol.3 (R6報告) と vol.4 (R7報告)

GRAND HAT グランハット

久御山町 全世代・全員活躍まちづくりセンター

NewsLetter

Vol. 3
2024年度報告
Vol.1 2022年度報告
Vol.2 2023年度報告

みなさまこんにちは！ 久御山町全世代・全員活躍まちづくりセンター開館準備業務において運営管理を担当しておりますアクティオ株式会社です。この一年間の運営管理業務の一端をみなさまにお届けします。2024年度は前年度に引き続き様々な開館準備業務を推進しつつ、新たに施設内の細かい仕様について設計・建築との協議や施設備品として必要なものの選定等を行いました。その中からいくつかをご紹介します。 ■■■

トピック I 施設愛称とロゴが決まりました！

1. 施設愛称の公募・選定

久御山町全世代・全員活躍まちづくりセンター
グランハット

2024年春から施設愛称の一般公募を開始し、全国から735点のご応募をいただきました。応募作からさらに候補を絞り住民の皆様投票をしていただいた上で秋に左記「グランハット」に決定しました。鎌倉市在住の方の作品で建物外観が「大きな帽子、のようだということが由来になります。今後は「グランハット」の愛称で呼びいただけたらと思います。また、施設愛称とあわせてグランハット主ホール名を「わくわくホール」に決定しました。 ■■■

2. ロゴの制作・決定

GRAND HAT
グランハット

さらに愛称にちなんだロゴをデザイナーが制作しました。
①「大きな帽子」のイメージと水害対策で1.2mの盛土をすることから施設が立地する微高地（丘）のイメージや、②知り合いを見かけたら帽子をフツと持ち上げてあいさつをするようなコミュニケーションの姿から発想を上げ、外には「元気に呼びかける」内には「人を迎え入れる」といった活動的なイメージでデザインされました。左上のタイトルのパターンや左記横長のパターンのようにいくつかのパターンがあります。今後、住民の皆様にご覧いただけたらと思います。 ■■■

プレ事業① 「ミニくみ」2024年度版

2023年度からさらに発展した形で「ミニくみ」（「こどものまち〜ミニくみやま」の愛称）を12月8日(日)に実施しました。本事業は小学生が対象で、おとなたちはサポートに徹し、こどもたちの主体性を育むことを目指します。グランハット開館後は施設全体を活用して毎年クリスマス時期に実施する予定です。今年も実施しますのでお楽しみに！ ■■■



...おとなスタッフのみならず、おとなスタッフと話し合いながら、何屋さんを聞くのから始まり、商品やお店づくりに至るまで事前の準備にあたる「こども会議」を7月から計6回実施しました。



...「こどもスタッフ」（「ミニくみ」のお店の運営者）20名と「こどもレジデント」（「ミニくみ」の住民）51名による「ミニくみ」当日の様子です。

プレ事業② 巨椋池学まちあるきツアー

2023年度にご好評をいただきましたNHKプラタモリなどでもお馴染みのノートルダム女子大学客員教授梅林先生による東一〇のまちあるきツアーを実施しました。 ■■■



...グランハット開館後に展開予定の「巨椋池学」（地域学）に関連して、歴史地理や地学・景観をはじめとする多彩な観点から東一〇についての先生の考察をお楽しみいただきました。

トピック II SNS,HPの開設・ご案内

2023年度のSNS (Instagram, LINE) 開設に続き、当初の予定より早く仮HPを開設しました。「ミニくみ」の様子なども掲載しておりますので是非ご覧ください。 ■■■

Instagram LINE ホームページ

お問合せ： 生涯学習応援課 ☎ 075-631-9980・0774-45-3918 ✉ shogai@town.kumiyama.lg.jp

GRAND HAT グランハット

久御山町 全世代・全員活躍まちづくりセンター

NewsLetter

Vol. 4
2025年度報告

みなさまこんにちは！ 久御山町全世代・全員活躍まちづくりセンター開館準備業務において運営管理を担当しておりますアクティオ株式会社です。この一年間の運営管理業務の一端をみなさまにお届けします。2025年度は引き続き様々な開館準備業務を推進しつつ、プレ事業の実施数を増やしましたので、その中からいくつかをご紹介します。 ■■■

トピック グランハットの開館日が決まりました！



久御山町全世代全員活躍まちづくりセンターが来春2027年3月7日(日)に開館します！
今後開館が近づくにつれSNSやHPの内容も充実してまいりますのでお楽しみにご期待下さい。 ■■■

Instagram LINE ホームページ

プレ事業① ドボクの子カラ再発見ツアー

久御山町を中心とした地域のことを深堀していく「巨椋池学」。今年の「巨椋池学」は久御山が誇るジャンクションの理想型をもつ久御山JCTについて、橋梁設計の専門家をお招きし、橋梁土木の観点から講座と現地見学会を実施し、定員を超える応募をいただきました。 ■■■



プレ事業② 「ウィキペディアタウン」久御山〜佐山・佐古編

町立図書館と「ふるさと教室」との連携により「巨椋池学」のひとつとして「ウィキペディアタウン」を実施しました。ウィキペディアタウンとは、住民自らが実地調査と文献調査を行い、住民発信でウィキペディアの居住地（久御山町）の記事を充実していくという企画です。 ■■■



...午前中に佐山・佐古エリアの寺社を中心にまちあるきを行い、午後からは、参加住民のみなさんが手分けして調査し、ウィキペディアに掲載する記事を自ら作成し発信しました。

プレ事業③ 「ミニくみ」2025年度版

2023年度から数えて3回目の「ミニくみ」（「こどものまち〜ミニくみやま」の愛称）を12月6日(日)に実施しました。本事業は小学生が対象で、おとなたちはサポートに徹し、こどもたちの主体性を育むことを目指します。グランハット開館後は施設全体を活用して毎年クリスマス時期に実施する予定です。今年も実施しますのでお楽しみに！ ■■■



...12/6本番の様子。総勢62名のこどもたちが参加しました。今回から初めてご協力いただいた公募おとなスタッフも加わり、本番までこどもスタッフを中心として計7回のこども会議で事前の準備にあたりました。



...「こどもスタッフ」（「ミニくみ」のお店の運営者）三期生22名の皆さん。今回からお店屋さん以外に新たに銀行と放送局がこどもスタッフのアイデアで加わりました。

その他 計21コマの事業を実施

この他、「ピーターラビット」と考える新しいお花のかたち、「建築現場見学会」「くみラゴ」シリーズ 飛行の科学：ドローンで探る揚力のメカニズム などあらゆる世代を対象に計21コマの事業を実施しました。 ■■■

お問合せ： 生涯学習応援課 ☎ 075-631-9980・0774-45-3918 ✉ shogai@town.kumiyama.lg.jp

4. ブランディングと広報

.....【R8計画】

要求水準

- 事業者は設計事業者と協力して、多くの住民に周知できるニュースレターの作成を行うこと。発行回数（※開業準備期間中）は3回程度とする。・・・⑨
- 開館に関する広報等を行うこと。・・・⑫

R8計画

ブランディングについては、愛称・ロゴ・イメージカラーが決まったのでこれを展開していく。広報については、従来の手法に加えて秋頃をめどに庁舎懸垂幕による新たな広報を予定している。

想定内容

- (1)ニュースレターを発行し、町広報紙への折り込みを実施する予定であるが、竣工・開館時期と重なることが予想されるため発行時期や形式については町と協議の上実施する。
- (2)愛称・ロゴ・イメージカラーを使用したブランディングの展開については、広報物や名刺などに活用することで地道に普及を図っていく。
- (3)開館を控えてSNS（LINE、Instagram）やHPによる情報発信を増加する。
- (4)庁舎懸垂幕による広報を開始する予定。府道15号線（宇治淀線）を往来する車両からも認識しやすく町内外への広報に寄与するものと思われる。

5. 業務推進・自主事業推進

.....【R7報告】

要求水準

- 開館後の管理運営業務に関する実施計画等（催事計画等）を町等と調整しながら作成すること。・・・⑤
- 本施設の利用率や魅力向上等に資する意見については、町と協議の上、管理運営業務に適宜反映すること。・・・⑦
- 開館にあわせて人事配置、育成等を実施すること。・・・⑪
- 事業者は、運営方針をはじめ、必要に応じ各種業務マニュアルを作成し、町の承認を得ること。・・・②

当初計画

業務については、建築の進捗、条例の策定、指定管理仕様書の策定に合わせた推進を予定している。各事業やオープニング計画について準備を推進する。また、可能なところからマニュアルの作成を順に進めていく。

実施内容

- (1)各種業務委託予定事業者（施設管理、清掃、警備、舞台、カフェ等）と各部門について開館準備業務や開館後の業務について引き続き協議を進めた。
- (2)プレ事業の2本柱である①「巨椋池学」から「まちと人をつなぐ土木の世界をのぞいてみよう！ドボクのチカラ再発見ツアー 久御山ジャンクションの見方教えます」（9/21）と②「ミニくみ」（12/6）を実施したほか、計21コマの事業を実施した。
- (3)統括責任者が、引き続き「いきがい大学」継承企画や地域学（『巨椋池学』）関連講座の講師候補となる先生や住民との話の機会をもち、開館後の事業編成のための情報収集を行った。また、連携を想定している町内外の団体等についても引き続き調整を行った。

「【巨椋池学】まちと人をつなぐ土木の世界をのぞいてみよう！」

9/21(日)

～ドボクのチカラ再発見ツアー 久御山ジャンクションの見方教えます～



参加者 計17名

【参加した感想】

- ・初めての土木に関するツアーで楽しかった。ただ時間の読みが甘かったのは反省点ですね。
- ・久御山JCTが好きで2年前に近くに引越してきました。いろいろとこれからは視点を変えて見れそうです。
- ・座学、フィールド共に楽しかったです。丹羽さんの土木、橋への愛を感じられました。
- ・普段（JCTを）下からじっくりみることはないもので、おもしろかったです。
- ・先生の橋の解説がよくわかり、いろんな質問にも答えてくださって勉強になった。
- ・とても楽しかったです。ぜひまた機会をつくってください。先生のお話も良かったです。
- ・今まで橋に興味を持ってみる事がなかったので、とてもおもしろかったです。
- ・講師のお話が分かりやすく、興味を持ってツアーに参加できました。
- ・知っている道路を違う目線で見れて新鮮だった。



「第1回「ウィキペディアタウン in 久御山」～佐山・佐古編」 2/1(日)

参加者 計10名



【参加した感想】

- ・歩いて探索は初めてでした。こんなところがあるのだと発見の連続でした。
- ・知らないことに触れ、新しい知識が増えた。「ウィキペディア」初めて知りました。
- ・勉強になりました。「ウィキペディア」の全体像がつかめた。
- ・久御山町の事が分かった。お寺が多くあるし一度は行ってみたいと思っていた。
- ・「ウィキペディア」だけもう少し勉強したいので、その主旨になる「講座」があれば参加したいと思う。



「ピーターラビット™と考える新しいお花のかたち」
12/7(日) 計30名



「ふるさと教室」×「巨椋池学」 連携企画
「巨椋池干拓地探鳥会」
3/5(木)計4名



「くみ！ラボ」飛行の科学：ドローンで
探る揚力（ようりょく）のメカニズム」
3/29(日) 計30名



5. 業務推進・自主事業推進

.....【R8計画】

要求水準

- 開館後の管理運営業務に関する実施計画等（催事計画等）を町等と調整しながら作成すること。・・・⑤
- 本施設の利用率や魅力向上等に資する意見については、町と協議の上、管理運営業務に適宜反映すること。・・・⑦
- 開館にあわせて人事配置、育成等を実施すること。・・・⑪
- 事業者は、運営方針をはじめ、必要に応じ各種業務マニュアルを作成し、町の承認を得ること。・・・②

R8計画

業務については、建築の進捗、条例の策定、指定管理協定書の策定に合わせた推進を予定している。年度内各事業やオープニング計画について準備を推進する。また、可能となったところからマニュアルの作成を順に進めていく。

想定内容

- (1)各種業務委託予定事業者（施設管理、清掃、警備、舞台、カフェ等）と各部門について1月以降に予定されている開館準備業務や3月以降の開館後の業務を推進していく。
- (2)プレ事業（4月～2月）については、プレ事業の2本柱であった①「巨椋池学」と②「ミニくみ」に加えて、**「いきがい大学」継承企画を試行的に実施**するほか、3月の開館に向けてオープニング事業に直接つながる事前の事業などを実施していく。
- (3)オープニング事業並びにオープニング強化月間にあたる事業の計画および令和9年度の事業計画についてもこれまでの開館準備期間の集大成として進めていく。

2026年度「いきがい大学」内「くみやまカレッジ」試行講座

くみやまカレッジ 該当コース	仮タイトル	講師	日時
健康	農家の知恵袋 食育セミナー	岡井良太氏	7/14(火)14:00-15:30
巨椋池学	『巨椋池学』の凸凹を探る： 東一口・旧山田家住宅の地域形成	梅林秀行氏	9/13(日)13:30-15:30
まちづくり	未定(ボランティア活動にチャレンジ)	高月氏 & 社会福祉協議会	11/19(木) 14:00-15:30仮
芸術文化	ヤッシーの聴いて楽しむジャズ音楽史Ⅰ	BBBB大嶋氏	1/30(土)14:00-15:30

※会場はいずれもコンベンションホール

くみやまカレッジ2027 概略

- ・全5コース×各5コマ
- ・各コース本科生18名+単科生
- ・講義形式だけでなくワークショップ形式や社会見学（フィールドワーク）などの手法も取り入れて行います。

くみやま
カレッジ

Kumiyama
College

現行「いきがい大学」の継承企画

いきがい

Daily joy

いきがい Dally joy

現行「いきがい大学」の系譜を引き継ぐコースです。

巨椋池学

Regional Studies

巨椋池学 Regional Studies

久御山版地域学。人文・社会・自然科学の多彩な視点から久御山町を中心とした周辺地域の理解を深めることを目指します。

芸術
文化

Arts & Culture

芸術文化 Arts & Culture

少ないコマ数ですが音楽・美術をはじめとする様々な芸術文化を学び・これに住民の皆さんが触れる機会を提供します。

健康

Wellness

健康 Wellness

食育や体操など身体的な健康講座だけではなく、ストレス管理やポジティブ思考などの感情にまつわるトピックや社会的な人間関係などもとりあげていくことで住民の皆さんのよりよい生活につながることを目指します。

まちづくり

Community Development

まちづくり Community Development

多種多様な意味を持つまちづくりについて、アカデミックな視点にこだわらず、実際に活動されている町内外の方を講師に招いて直接お話を伺ったり、ワークショップを行うことで、住民の皆さんが実践的なまちづくりに取り組める素地を整えることを目指します。